

特別支援学級国語科学習指導案

自閉症・情緒障害特別支援学級（あすなろ学級） 3人
 知的障害特別支援学級（はばたき学級） 5人
 指導者 T1 秋田 護 T2 小正 千華

1 題材名 ありがとうを伝えよう

2 題材について

(1) 題材の価値

2年生2人の子どもたちは、これまでに、平仮名を読んだり、書いたりすることを中心に学習を行ってきた。また生活単元学習では、招待状を書いたり、行事を終える度に絵と文で感想を書いたりする学習も進めてきた。しかし、教師が子どもに意図的に質問して、子どもが発した言葉を書いた手本を視写する活動が主であり、どのようなことを書けばよいのか分からないまま活動していることもある。

そこで本題材では、身近な人にお礼の手紙を書くという体験的な活動を設定し、書きたいという意欲を高めることで、選んだカードの気持ちを促音や拗音を入れて書いたり、発表したりして、相手に思いを伝えることができるようにしたい。

指導に当たっては、まず、自分が手紙をもらったときの気持ちについて考えたり、みんなで一つのお礼の手紙を完成させたりすることで、手紙をやりとりすることの大切さや、書き方について知ることができるようにし、次時以降の個人で書く活動に生かすことができるようにする。お礼の手紙を書く相手は、自分たちの学校生活や家庭生活における身近な相手である校長、学校主事、給食技師とし、その人との関わりからどのようなことをしてもらったかを想起できるようにして、手紙を書くことができるようにしたい。さらに、カレンダーを買ってもらった多くの方々に向けて、お礼の文章を書く活動にもつなげていきたい。

3年生2人と5年生1人の子どもたちは、これまでに、平仮名や片仮名、漢字を読んだり、書いたりする学習、短い文の中から尋ねられたことを読み取る学習、招待状や行事の感想を書く学習などを行ってきた。しかし、平仮名や片仮名で促音や拗音が抜けてしまった文章であったり、どんな内容の文章を書くべきか分からずに、書き出すまでに手立てと時間を要することも少なくない。

そこで本題材では、身近な人にお礼の手紙を書くという体験的な活動を設定し、書きたいという意欲を高めることで、促音や拗音を書いたり、感謝の気持ちを伝えたりすることができるようにしたい。

指導に当たっては、まず、自分が手紙をもらったときの気持ちについて考えたり、みんなで一つの手紙を完成させたりすることで、手紙をやりとりすることの大切さや、書き方を知り、個人で書く活動に生かしていくことができるようにする。また、相手を代えて、繰り返しお礼の手紙を書くことで、手紙にどのようなことを書けばよいか分かり、自分で進んで書くことができるようにもしたい。その際、状況の分かる写真などを提示することで、してもらったことが分かり、手紙にもそれらの内容を書き込むことができるようにしていきたい。さらに、カレンダーを買ってもらった多くの方々に向けて、お礼の文を書く活動にもつなげていきたい。

3年生1人と6年生2人の子どもたちは、これまでに、当該学年の教科書を使って音読の練習をする学習や、当該学年以前のレベルの文章の読み取りなどの学習を行ってきた。また、招待状や行事の感想などを書く学習も進めてきた。しかし、書く学習では、自分の伝えたいことをまとめることが難しく、事実のみを羅列する文になってしまうこともある。

そこで本題材では、お礼の手紙で自分の気持ちを伝えるという体験的な活動を通して、理由と合わせて気持ちの言葉や、感謝の気持ちを書くことができるようにしたい。

指導に当たっては、まず、自分が手紙をもらったときの気持ちについて考えたり、みんなで一つの手紙を完成させたりすることで、手紙をやりとりすることの楽しさや、書き方を知ることができるようにする。その際に下級生が書いた文に、6年生が具体的にしてもらったことを付け加えるようにすることで、書いている内容を広げて、手紙をもらった人に、より気持ちが伝わるような文章を書くことができるようにしたい。その文章を称賛することで、次時以降に個人で手紙を書く活動で、導入の過程で提示する写真を基に、具体的にしてもらったことへの感謝の言葉を書くことができるようにもしたい。さらにカレンダーを買ってもらった多くの方々に向けて、お礼の文を書く活動にもつなげていきたい。

このような学習を通して、体験したことをまとめる際に、事実とともに気持ちや様子などの具体的なことを書くことで、文章表現が豊かになっていくものと考え。さらに、日常生活における手紙や年賀状などを書く活動の文章の充実にも広げていきたいと考える。

(2) 題材の目標

○ 友達の発表を聞いたり、決められた場所で、発表したりすることができる。	○ 友達の発表を聞いたり、自分が書きたいことを教師に伝えたりすることができる。	○ 内容を考えながら聞いたり、質問や感想を言ったりすることができる。
○ 促音や拗音を含んだ平仮名を、相手に聞こえる声の大きさと読むことができる。	○ 自分が書いた手紙の文を、正しく読むことができる。	○ 相手に伝わる声の大きさや適切な速さで読んだり、発表したりすることができる。
○ 伝えたい気持ちを選び、示された枠内に書くことができる。	○ 自分が思った気持ちや話したことを、促音や拗音を正しく使いながら文章に表すことができる。	○ 「○○してくれてありがとう。」と理由を付けて書くことができる。

(3) 子どもの実態

	題材に関する教育的ニーズ	聞く・話す	読む	書く	コミュニケーション	見通し
A児 2年男子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手を見ながら、友達の発表や教師の話の話を聞くことができること。 ○ 平仮名の促音や拗音を正しく読んだり書いたりすることができること。 	<p>友達や教師の話を集中して聞くことが難しく、その都度、言葉掛けをする必要がある。</p> <p>自分が楽しかったことを友達に話したり、分からないことを教師に尋ねたりすることができる。</p>	<p>平仮名を一字ずつ拾って読みすることができる。拾い読みした後に文節で言い直すことができる。</p> <p>促音や拗音については、意識しながら読もうとしているが、それらも一音ずつ発音しようとすることが多い。</p>	<p>促音や拗音は、発音通りに書くことが難しい。教師が「小さい何かが入るよ。」と場所を示すと、考えながら入れようとするが、正しくないことも多い。</p>	<p>自分の思い通りにならないと怒り出したり、泣き出したりすることもあるが、友達と活動することが好きである。</p>	<p>自分のしたいことが優先され、活動を途中で終わることが苦手である。タイマーで終わりまでの時間を提示したり、事前に時計の○までと予告しておき、時間がきたことを確認することで、終わることができるようになってきた。</p>
B児 2年女子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達の発表を最後まで静かに聞いたり、相手に聞こえる声で発表をしたりすることができること。 ○ 最後まで、升目に文字を入れて書くことができること。 	<p>大勢の中で話を聞く際に注意がそれてしまうことがある。言葉掛けをしてから話を始める必要がある。</p> <p>見聞きしたことや体験したことなどの事実を話すことができる。</p>	<p>文節ごとのまとまりで読むことができるようになってきた。言葉掛けをすることで、始めは大きな声で発表できるが、少しずつ小さくなっていく。</p>	<p>筆圧が強くなり、升目に文字を入れて書くことができるようになってきつつある。</p> <p>「誰が何をした。」の2語文程度を書くことができる。</p>	<p>とても人なつっこく、いろんな人と関わりたいと思っている。自分のしたいことがあると友達と遊んでもそちらを優先させてしまうため、周りが戸惑うことがある。</p>	<p>少しずつではあるが、「長い針が○までに着替え終わるよ。」と言葉掛けをすることで、それに合わせて取り組むことができるようになってきた。</p>
C児 3年男子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手を見ながら、静かに話を聞くことができること。 ○ 時と場を考えて、話をするすることができること。 ○ 事実だけでなく、気持ちの言葉を入れて日記などを書くことができること。 	<p>交流学級などで全体に向けて教師が話をする際には、本児の名前を呼び掛けることで、話す人を見て聞くことができる。</p> <p>友達や教師が話をしているときに、途中で話し始めてしまうことがある。</p>	<p>文字を読むことが好きであるが、出版社・著者などの学習に関係のないところまで、興味をもってしまい、読み続けることがある。音読は大きな声ですることができる。</p>	<p>日記を継続して書いているが、事実の羅列になってしまいがちで、文章の最後に「楽しかったです。」とパターン化されたものになってしまう。現在他の気持ちの言葉も入れて書くように練習している。</p>	<p>友達と活動することは好きであるが、自分のペースで、したいことを優先させることがある。</p>	<p>急な予定変更や、自分がしている活動が途中で中断されると泣き出してしまふことがある。事前に時刻を予告しておいたり、文字で書いたりして、本人が何度も確認できるようにする必要がある。</p>
D児 3年男子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手を見ながら、最後まで話を聞き、内容を理解することができること。 ○ 平仮名、片仮名や2年生程度の漢字を正しく読んだり、書いたりすることができること。 	<p>全体の場で教師が話をするとき、内容の理解が難しいことがある。また、その際言葉掛けをすると、「あのね、ぼくね…」などと別々の話を大きな声ですることもある。</p>	<p>音読では、平仮名の文章を文節で区切って読むことができる。促音や拗音を読むこともできる。</p> <p>漢字は1,2年生で学習する程度のものであれば読むことができる。</p>	<p>自分からは文を書き出すことは少ないが、教師との会話のやりとりから思い出して書くことができることもある。</p> <p>曜日や1,2年生程度で画数の少ない漢字は書くことができる。</p>	<p>友達に自分から関わろうとするが、相手の興味を引くために、たたいたり、つついたりしてしまい、相手から注意を受けたり、嫌がられたりすることがある。</p>	<p>やるべきことを教師が教え、繰り返し行うことで教師からの言葉掛けは減ってくる。急な変更などにも対応することができる。</p>

	題材に関する教育的ニーズ	聞く・話す	読む	書く	コミュニケーション	見通し
E児 3年男子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手を見ながら、姿勢を保持して話を聞くことができること。 ○ 促音や拗音を正しく書くことができたり、読んだりすることができること。 	<p>言葉掛けや称賛を繰り返しながら、聞くことができる時間の持続を図っている。</p> <p>順序立てて話すことが難しかったり、話をしている内容がそれてしまったりすることがある。</p>	<p>文字を追う速さが速くなり少しずつスムーズに読むことができるようになってきたが、長い文章を読む際は、「疲れた。」と言って途中でやめてしまうことがある。</p>	<p>促音や拗音を教師に確認しながら正しく書くことができるようになってきたが、まだ確実ではない。自分の言った言葉を文に表すことが難しく、「今、僕何て言ったかな。」と聞き返すことがある。</p>	<p>人と関わるのが大好きで、友達と楽しく遊ぶことが多い。しかし、友達に注意されると、水を掛けたりその場から走り去ったりして1時間くらい隠れてしまうことがある。</p>	<p>取りかかるまでに時間を要するが、時計を読むことができるようになってきたことで、時間を気にしながら活動することができるようになってきている。</p>
F児 5年男子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 姿勢を保持して話を聞いたり、整理しながら話したりすることができること。 ○ 正しい促音や拗音を書くことができること。 	<p>言葉掛けをしながら話を聞く姿勢を持続できるようにしている。</p> <p>伝えたいことはあるが、「あれ」「それ」「これ」という指示代名詞を多く使い、相手に伝わらないことがある。</p>	<p>声の大きさを一定にして読むことが難しいが、文節に区切りながらスムーズに読むことができるようになってきた。</p>	<p>筆圧が少しずつ強くなってきた。促音や拗音を正しく書くことが難しい。</p> <p>始めと終わりで文章内容が変わってしまうことがある。</p>	<p>友達とも積極的に関わるができる。</p> <p>「あったか言葉」を言うことができるので、交流学級の友達とも仲良く関わり楽しく過ごすことができている。</p>	<p>最近、少しずつではあるが、「焦る」という言葉の意味を理解し、急いで準備をしようとする行動が見られるようになってきた。</p>
G児 6年女子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手に伝わる声の大きさや速さで発表をすることができること。 ○ 自分の気持ちや理由などを入れながら書くことができること。 	<p>良い姿勢で聞くことができる。内容は、後からもう一度説明を加えることで理解することができる。</p> <p>会話を楽しむ体験があまりなく、現在は、会話することの楽しさを味わうことに時間をかけている。</p>	<p>相手に伝わる声の大きさを読むことが難しい。句読点や文節ごとにまとまりで読むことが難しいため、切れ目がない読み方をしてしまう。</p>	<p>丁寧な文字で既習漢字を使いながら書いていくことができる。状況によって気持ちや理由なども書き入れることができるようになってきた。</p>	<p>人と関わり合うことは嫌いではないが、自分から話し掛けたり遊びに誘ったりすることは少ない。最近、友達と協力することの大切さを、文字に書いたり発言したりするようになってきた。</p>	<p>次にすることは理解していても一つのことに取り組むと、時間の見直しをもつことが難しく、終わるまで続けてしまう。</p>
H児 6年女子	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相手に伝わる速さで発表をすることができたり、友達の発表に質問したり、感想を言ったりすることができること。 ○ 丁寧な文字で理由を入れながら書くことができること。 	<p>良い姿勢で聞くことができる。内容が分からないときは、問い返すことができる。</p> <p>「○○だから△△って伝えてね。」などの伝言を伝えることや言いたいことを順序立てて説明することが難しい。</p>	<p>句読点で間隔を置かず早口で読んでしまうため、聞き取りづらいことがある。友達の発表に対して、思ったことを整理して伝えることが難しい。</p> <p>状況にあった声の大きさを発表をすることができる。</p>	<p>丁寧な字や正しい文字を書くことを練習中である。「楽しかった。うれしかった。」という気持ちを書くことができるが、理由を書くことは難しい。</p>	<p>学年、性別などに関係なく自分から積極的に話し掛けていくことができる。感情の起伏があるため、周囲がそれに戸惑うことがある。</p>	<p>次に何をすればよいか理解しているが、自分の話したいことがあると突然話し始め、「今は何に集中するの。」と言葉掛けをすることで、気付き、また学習に取り組む始めることが多い。</p>

3 指導に当たって（研究との関連）

【「思考活動」を促す学習指導】

- 「つかむ・見通す」過程（思考場面1）では、前時までに把握した子どもの個人目標を意図的発問として子どもに問い掛けたり、ワークシートに書くようにしたりすることで、個人目標への意識を高めることができるようにする。
- 「活動する」過程（思考場面2）では、お礼の手紙や文を書く活動で、手紙の書き方を掲示したり、ミニカードとして提示したりすることで、自分のワークシートに書いた手紙と比較して、書くべき内容が入っているか確認することができるようにする。
- 「振り返る」過程（思考場面3）では、達成した個人目標を確認し、友達や教師とできたことを共有することで、「やった。できた。」という達成感を味わうことができるようにする。
- 子どもたちの実態に応じてグループ編成を行い、そのグループに適した材料を提示することで、「思考活動」を促し、目標を達成することができるようにする。

【評価資料を生かした指導】

- 子どもが個人目標を達成するための手立てや発問を評価資料に整理し、各学習過程において個に応じた指導をすることで、個人目標を達成することができるようにするとともに、支援が適切であったかの妥当性を評価することで、次時の指導に生かすことができるようにする。

4 指導計画（全8時間）

次	時間	指導のねらい			主な活動内容
		A・B児	D・E・F児	C・G・H児	
一 次	2	校長先生から手紙をもらったときの気持ちを考えたり、手紙をもらった校長先生にお礼の手紙を書いたりすることで、お礼の手紙の書き方を知る。	手紙を書く相手との関わりから、そのときの気持ちや感謝の言葉を入れた手紙の書き方を知ることを知る。		1 校長先生からもらった手紙を読む。 2 手紙をもらったら、どんな気持ちになったかを考える。 3 お礼の手紙の書き方を知る。 4 みんなでお礼の手紙を書く。 5 清書して、装飾する。 6 お礼の手紙を渡す。 7 お世話になっている方を思い出し、お礼の手紙を書く計画を立てる。
		気持ちの言葉を選んだり、考えたりして教師に伝え、書くことを知る。			
二 次	4 (本時3/4)	学校でお世話になっている方々（学校主事・給食技師）に、感謝の気持ちを伝えるお礼の手紙を書く。	相手との関わりを考え、そのときの気持ちを教師に伝え、伝えたことを書く。	写真を基に、相手との関わりを考えて、気持ちの言葉を含んだ手紙を書く。	相手 学校主事・給食技師 1 どんなことでお世話になっているかを知る。 } 各1時間 2 お礼の手紙を書く。 3 清書して装飾をする。 4 VTRを撮りながら、手紙を読んで渡す練習をする。 } 各1時間 5 手紙を渡す。
		気持ちの言葉を選んだり、考えたりして書く。			
三 次	2	カレンダーに載せる、買ってくれた方が喜ぶお礼の言葉を書く。	買ってもらう方への感謝の気持ちや、自分が頑張ったことを教師に伝え、書く。	買ってもらう方への感謝の気持ちや、自分が頑張ったことを自分で考えて書く。	1 昨年度のバザーの様子やカレンダーを活用している人の様子などを写真で知る。 2 なぜカレンダーを買ってもらう人にお礼の言葉を書くか考える。 3 お礼の言葉を書く 4 清書する。
		カレンダーを買ってもらう方への感謝の気持ちを書く。			

5 本 時 (5 / 8)

(1) 目 標

- 気持ちの言葉をカードから選んだり、考えたりして、促音や拗音を含んだ言葉を決められた枠の中に視写することができ、書いたものを読むことができる。(A児・B児)
- 給食技師との関わりや仕事の様子の写真を見ることで、気持ちの言葉を含んだ文を考え、それらを教師に伝え、促音や拗音を含んだ文を書くことができる。(D児・E児・F児)
- 給食技師との関わりや仕事の様子の写真を見ることで、してもらっているときの気持ちや、相手への感謝の気持ちを伝える文章を書くことができる。(C児・G児・H児)

個人目標	A児 (2年男)	○ 促音や拗音の含まれた言葉を読むことができる。 ○ 手本を見て、「きゅうしょく」の文字を写し、ワークシートの空欄に書き込んで、手紙を書くことができる。
	B児 (2年女)	○ 友達に聞こえる声で発表をすることができる。 ○ 筆圧に気を付けながら、文字を最後まで昇目に書くことができる。
	C児 (3年男)	○ 友達の発表を最後まで聞き、自分が発表するときは、適切なスピードで文を読むことができる。 ○ 「○○してくれてありがとうございます。」という文を書くことができる。

※ 「思考場面」における「思考活動」とその「材料」及び「視点」については評価資料に明記

(2) 展 開

過程 (分)	主 な 学 習 活 動	子どもに応じた具体的な指導		
		A児	B児	C児
つかむ・見通す (10)	1 はじまりのあいさつをする。 2 前時の学習を振り返る。 3 本時のめあてを確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">給食の先生にお礼の手紙を書こう。</div> (1) めあてを声に出して読む。 (2) 個人のめあてを考える。 (3) 個人のめあてをワークシートに書く。	○ 学習計画や今までの学習の様子を見ることで、これまでの活動を想起することができるようにする。(想起) ☆ 前時までの学習の様子を静止画で見たり、前時までに書いたお礼の手紙を再度みんなで読んだりすることで、給食技師へのお礼の手紙を書きたいという意欲を高めることができるようにする。 ○ 全体の目標を基に、個に応じた発問や提示資料で個人目標を考えるようにすることで、個人目標への意識を高めることができるようにする。(想起) ○ A児は、視写に時間がかかるため、「きゅうしょく」の部分だけを書くことができるようにする。 ○ B児は、視写に時間がかかるため、「しかくのなかに」の部分だけを昇目に書くことができるようにする。		
活動する (25)	4 給食技師へのお礼の手紙の書き方を確認する。 (1) 何を伝えるか考える。 (2) 伝えたいことを書く。 ※ 書くことが分からなくなったら、先生に伝える。 5 手紙を書く。	○ 自分が知っている給食技師の仕事の様子を思い出したり、給食技師が仕事をしている静止画を見たりして、どんな手紙を書くか考えることができるようにする。(想起) ○ お礼の手紙の書き方を常時提示しておくことで、確認をしながら活動ができるようにする。(想起) ○ 伝えたいことを書く際に、拗音については、教師と一緒に読み方を確認して読み、黒板の例を見ることで、正しく書くことができるようにする。(想起) ○ 「最後まで聞く」のミニカードを見ることができ、自分が頑張ることを確認することができるようにする。	○ 昇目の中に文字が入っているものと、入っていないものが書かれたカードを提示することで、正しく書くことができるようにする。(想起・比較) ○ みんなに聞こえる声で発表することができるよう「声のものさし」を提示する。	○ 伝えたいことを書く際に、事実の羅列にならないように、「○○してくれてありがとうございます。」と書かれたカードを参考に書くことができるようにする。(想起) ○ 「ゆっくり読む」のカードを提示することで、友達が聞き取りやすい適切な速さで発表することができるようにする。
振り返る (10)	6 本時の学習を振り返る。 頑張ったことや、楽しかったことを発表する。 7 次時の学習を確認する。 8 終わりのあいさつをする。	○ 自分の個人目標を振り返り、できたことを教師や友達と確認し、称賛することで、達成感を味わうことができるようにする。(想起) ○ 学習計画で次時の活動を確認することで、見通しをもち、意欲をもって次時の活動ができるように促す。		

個人目標	D児 (3年男)	○ 聞き手が聞き取りやすい声の大きさと速さで発表をしたり、友達の発表を静かに聞いたりすることができる。 ○ 正しい促音や拗音を書くことができる。
	E児 (3年男)	○ よい姿勢の合い言葉である「ペタ・ちょこ・ぴん」で、姿勢を保持しながら友達の発表を聞くことができる。 ○ 正しい促音や拗音を書くことができる。
	F児 (5年男)	○ 正しい姿勢で、相手の目を見て聞くことができる。 ○ 正しい促音や拗音を入れながら、テーマにあった内容を書くことができる。
	G児 (6年女)	○ 相手に伝わりやすい声の大きさと速さで発表し、分からないことがあったら質問をすることができる。 ○ 自分の気持ちと理由を入れた文章を書くことができる。
	H児 (6年女)	○ 相手に伝わりやすい速さで発表し、友達の発表に対して、質問や感想を言うことができる。 ○ 丁寧な文字で自分の気持ちと理由を書いていくことができる。

☆はICT活用の留意点

過程 (分)	子どもに応じた具体的な指導				
	D児	E児	F児	G児	H児
つかむ・見通す (10)	○ 学習計画や今までの学習の様子を見ることで、これまでの活動を想起することができるようにする。(想起) ☆ 前時までの学習の様子を静止画で見たり、前時までに書いたお礼の手紙を再度みんなで読んだりすることで、給食技師へのお礼の手紙を書きたいという意欲を高めることができるようにする。 ○ D・E児は、書くことに取り組むまでに時間を要することがあるので、時間の見通しをもつことができるように終了時刻を示す言葉掛けをし、早く書こうという意識をもつことができるようにする。				
活動する (25)	○ 手紙を書く際に、静止画を見てどんなことを書くか教師と確認することで、自分が話した言葉を文に書くことができるようにする。(想起) ○ 発表する際は、「声のものさし」を提示することで、適切な声の大きさと速さで発表することができるようにする。 ○ 友達の発表を聞く際は、正しい姿勢を示したカードで、意識を高めることができるようにする。	○ 書き始めの内容を確認することで、意欲をもって書いていくことができるようにする。 ○ 拗音は1音ずつゆっくり発音するように言葉掛けすることで、小さく書く文字が何か気付くことができるようにする。 ○ 日頃の学習で使用している「くちびるマーク」や、「やゆよカード」を提示することで、正しく書くことができるようにする。(想起)	○ 書きたい内容がテーマに合っているかを確認することで、安心して書いていくことができるようにする。 ○ 誰に何を書いているのか教師と確認しながら取り組むことで、統一した内容で書くことができるようにする。 ○ 日頃の学習で使用している「くちびるマーク」や、「やゆよカード」を提示することで、正しく書くことができるようにする。(想起)	○ 書く内容が理解できているか確認する。 ○ どのようなか、言葉で確認することで書く内容を整理し、取り組むことができるようにする。(想起) ○ みんなに聞こえる声の大きさと速さで発表することができるように「声のものさし」で意識を高める。また、句読点に印をつけ、一呼吸おいて読むことができるようにする。	○ 書き方の順序を見ながら書く内容を考えることができるようにする。(想起) ○ 言葉掛けをしながら、理由まで付けて気持ちを書くことができるようにする。 ○ 丁寧な文字で書くことができたら称賛する。 ○ みんなに聞き取りやすい速さで発表することができるように言葉掛けをする。 ○ 友達の発表を聞いて、質問や感想を言うことができたら称賛する。
振り返る (10)	○ 自分の個人目標を振り返り、できたことを教師や友達と確認し、称賛することで、達成感を味わうことができるようにする。(想起) ○ 学習計画で次時の活動を確認することで、見通しをもち、意欲をもって次時の活動ができるように促す。				

国語科「ありがとうを伝えよう」(5/8)

個人目標	A児	B児	D児	E児	F児	C児	G児	H児	
	手本を見て、「きゅうしょく」の文字を写し、ワークシートの空欄に書き込んで、手紙を書くことができる。	筆圧に気を付けながら最後まで昇目を書くことができる。	促音や拗音を正しく入れて、めあてや手紙を書くことができる。	促音や拗音を正しく入れて、めあてや手紙を書くことができる。	正しい促音や拗音を入れて、テーマにあった内容を書くことができる。	「○○してください。」という文で手紙を書くことができる。	自分の気持ちと理由を入れた文章を書くことができる。	丁寧な文字で自分の気持ちとその理由を書いていくことができる。	
評価項目									
<ul style="list-style-type: none"> ワークシートに自分のめあてを書くことで、本時で頑張ることを意識するができたか。 ミニカードを見て、自分が頑張ることを思い出し、手紙を書くことができたか。 ワークシートで自分が頑張ることを再度確認して、できたことを発表することができたか。 									
過程	個人目標を達成するための手立て ■ : 思考の材料 〈 〉 : 視点								
	A児	B児	D児	E児	F児	C児	G児	H児	
見 つ か す	思考場面1 〈どんなことに気を付けて、手紙を書くか分かるようにするために〉								
	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習の様子を写した静止画を見て、これまでにどのような活動を行ってきたか想起する。 個人目標をワークシートに書く。 個別のワークシート 								
手 立 て	「きゅうしょく」(A児)、「しかくのなかに」(B児)の部分を入力するワークシートを準備することで、個人目標で気を付けることを意識できるようにする。 手本		めあての書き方の手本となるワークシートを準備することで、拗音の言葉(きゅうしょく)に気を付けて書くことができるようにする。 手本			めあての書き方の手本を準備して、必要に応じてそれを見ながら書くことができるようにする。 手本			
	思考場面2 〈気を付けることを意識して活動するために〉								
活 動 す る	<ul style="list-style-type: none"> 給食技師の仕事の様子を思い出したり、仕事をしている静止画を見たりすることで、給食技師が子どもたちのためにしてくれていることが分かるようにする。 プレゼンテーション2 お礼の手紙の書き方の順序を確認する。 手紙の書き方 (確認した書き方を掲示することで、子どもたちがいつでも掲示された書き方を見て想起することができるようにする。) 								
	カードから気持ちを選び、ワークシートに書き込むようにすることで、手紙を書くことができるようにする。 手本 気持ちカード		□に入っている文字と、入っていない文字を比較できるミニカードを提示することで、目標を再度確認することができるようにする。 ミニカード		「くちびるカード」や「ゆよカード」を提示することで、それらの文字の書き方を確認して手紙を書くことができるようにする。 くちびるカード ゆよカード 他の文字について分からないとき、あるいは確認したいときには、机の横に掛けてある平仮名カードや片仮名カードを見るように言葉掛けをすることで、自分で書き方を調べることができるようにする。 平仮名カード 片仮名カード			前時までに書いた手紙や給食技師が仕事をしている様子の静止画などを提示することで、どのようなことを書けばよいか気付き、書くことを決めることができるようにする。 静止画	
手立て									
返 振 り	思考場面3 〈気を付けることを再度確認することができるために〉								
	<ul style="list-style-type: none"> 自分が頑張ったことを、ワークシートに付けられた花丸で確認することで、達成感を味わうことができるようにする。 ワークシート 次時の学習内容を静止画と学習計画で提示することで、次時に頑張ることを考えることができるようにする。 								
手立て									
評価									
次の目標									